

ナベナ *Dipsacus japonicus* Miq.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 13。山地の多少攪乱された場所に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

越年生草本。茎は直立して分枝し、高さ 1m 以上に達し、全体に刺状の剛毛がある。葉は対生し、1~6cm の柄があり、葉身はふつう羽状に全裂するが時に単葉、羽裂する場合頂裂片は側裂片よりはるかに大きく、鋭尖頭で鋭鋸歯があり、側裂片は 1~2 対、基部に近いものは小形である。花期は 8~9 月、花は紫色で、多数が集まって直径約 2cm の球状の頭花となり、基部に線形の総苞片がつく。小花の花冠は長さ 7mm で、上部は 4 裂し、花床の鱗片はくさび形、先端が刺針になる。そう果は長さ約 5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46941, 1993-8-22)、2 豊根 (村松正雄 13946, 1993-9-11)、3 東栄 (芹沢 84975, 2009-9-21)。西：5 稲武 (小林 39156, 1993-9-6)。8 鳳来北東部 (三輪村川合常道, 鳥居喜一 22212, 1948-9-19, HNSM) で採集された標本もある。

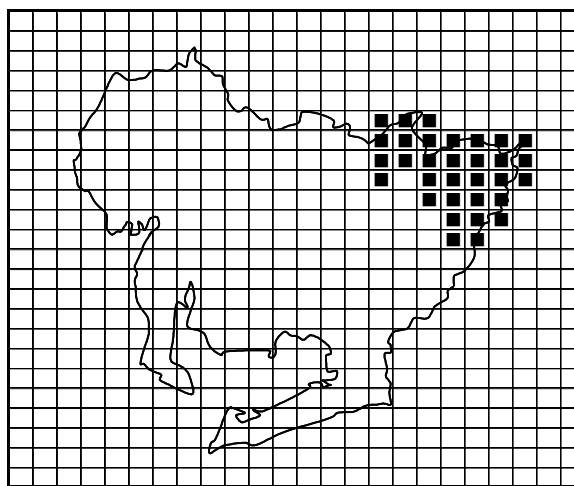
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の礫の多い沢、崩壊地、林道わきなどの、やや不安定な攪乱地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。また攪乱地に生ずるため生育状況が不安定で、確実に観察できる場所はほとんどない。

【保全上の留意点】

本種のような植物は、具体的な保全策が立てにくい。現状をはっきり認識できないうちに、絶滅してしまうおそれがある。崩壊地も自然の一つであることを認識する必要がある。

【特記事項】

和名の語源は不明である。

【関連文献】

保草本 I p.100, 平草本III p.148, 平新版 5 p.416.